

第2回「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」受賞者研究発表会および授与式開催報告

「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」は、優れた研究成果を挙げた長崎大学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、学術研究の将来を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進を目的として、今年度創設されました。

第2回受賞者研究発表会および授与式は、平成30年2月5日（月）10時20分から、文教キャンパス環境科学部大会議室において、執り行いました。報道関係（読売新聞社）からの取材もありました。

【受賞者】

優秀女性研究者賞 熱帯医学研究所
モイ メンリン 准教授
優秀女性奨励賞 医歯薬学総合研究科
藤田 和歌子 准教授

1. 開式挨拶（伊東昌子副学長／ダイバーシティ推進センター長）

伊東副学長からは、ご列席いただいた方々への御礼と本研究者賞の趣旨と概要説明がありました。本学において全学横断的に優秀な女性研究者を表彰する賞は、本賞が初めてであり、今年度が第2回であること、受賞者2人の更なる研究の飛躍と活躍を期待されて挨拶とされました。

2. 受賞者研究発表

優秀女性奨励賞 藤田 和歌子 准教授

■ 報告内容

1) これまでの研究略歴、2) ヘテロ二量体を標的とする新規疼痛治療薬の探索について、3) ヘテロ二量体を標的とする新規過敏性腸症候群（IBS-d）治療薬の作用機序の解明、4) 今後の研究の方向性を報告。

■ 今後の研究

MOPr-DOPr ヘテロ二量体の形成メカニズムの解明および受容体運搬分子の生理機能の解明に向け、研究を継続したいと考えている。

■ このような賞をいただき、またこのような研究発表の機会をいただき、感謝している。



優秀女性研究者賞 モイ メンリン 准教授

■ 報告内容

1) これまでの私の研究成果、2) デング熱について、3) デングワクチン開発に向けて、4) アジアとの共同研究の取組、5) 今後の研究・対策の必要性を報告。

■ 今後の研究

より一層アジアと日本との連携が必要であり、診断技術の開発と応用、アジア地域で流行しているウィルス株の解析、より有効で安価な治療法の開発が必要であると考えている。

■このような賞をいただき、これまで研究を支えてくださった多くの先生方、同僚の方々に感謝している。ダイバーシティ推進センターによる様々な支援制度を利用し、後進の育成にもつながっている。



3. 授与式

河野学長から受賞者のお2人に、表彰状、研究費としての副賞の目録、記念の盾が贈られました。

4. 総評（河野茂学長）

河野学長は、藤田先生の研究については新しい創薬につながるよう願っていること、モイ先生の研究は学外でも高く評価されていることを伝えた後、二人が長崎大学の核となり、今後も研究および本学の女性リーダーとしての活躍を期待されました。



5 閉式の言葉（福永博俊理事）

福永理事は、昨年も高いレベルであったが、今年はさらに一層高いレベルとなり喜ばしい限りであると話されました。1980年代に中国やポーランドで女性研究者が活躍していることで日本との差を強く感じた経験、本学で現在は女性研究者を増やすことに力を注いでいる。そして、「女性が羽ばたく長崎大学」となること、さらに「女性が羽ばたく長崎市」「女性が羽ばたく長崎県」となるように、理事としても努力していきたい、皆様のご協力をいただきたいと結ばれました。



(写真左から、植田弘師教授、塚元和弘理事、福永博俊理事、河野茂学長、【優秀女性奨励賞】藤田和歌子准教授、【優秀女性研究者賞】モイメンリン准教授、下川功理事、伊東昌子副学長、森田公一教授、藤木卓理事、井戸清隆理事)